

センター事業活用事例

ワンストップ移動相談

従業員の雇用維持のため 新規分野への大胆な転進

手作り工房 心紬(こころつむぎ)

電子部品製造会社が着物のリメイク事業に進出するという意外性のある展開の裏には、不況で仕事が減っていく中でも従業員の雇用を守っていかねばならないという経営者夫婦の思いがあった。一般に仕事に興味を持ち込むのは善し悪しだが、ここでは社長夫人の着物趣味に経営上の問題解決の糸口を見出そうとしている。

従業員の雇用の維持に腐心して

大仙市北檜岡の道の駅「かみおか」近くの国道沿いに「心紬(こころつむぎ)」がオープンしたのは今年の4月27日。着物地をリメイクした洋服や小物を並べる店だ。

この店にはちょっとした“誕生秘話”がある。オーナーの黒川恵美子さんのご主人は電子部品製造会社(有)黒川電子を経営していて、恵美子さんも専務として会社の経営に携わっていた。近年の不況で本業の仕事が大きく減っていく中で、従業員の雇用を守るための手を打つことが急務になっていた。そこで浮上してきたのが、恵美子さんの趣味の着物に関係した新規事業というアイデアだった。



工房は電子部品製造工場の余剰になったスペースを利用している。従業員は5名。安心して仕事を任せられる頼もしいスタッフばかりだ。

会社から分離して独立した事業に

2年ほど前に電子部品工場の一角を使って会社の縫製部門としてスタートさせ、着物地をリメイクして洋服や小物をつくって試験的に桜のシーズンの角館で簡易の店舗を構えて販売したら売れ行きはまずまずだった。そこから少しずつ委託販売先を増やしていった事業としての見通しを立てながら、現在は会社から分離して、独立した事業の形態をとっている。

「まったく新分野の事業の立ち上げだったので、あきた企業活性化センターのワンストップ移動相談を利用し、専門家のアドバイザーの先生を紹介していただいて、先生から仕入れ先を教えてもらったり店舗づくりをアドバイスしてもらって、念願だったゴールデンウィーク前のオープンにこぎ着けることができました」(黒川オーナー)

差別化を図って規模拡大を目指す

もう少し待てば利用できた公的融資制度もあったが、個人相手の商売は最初に勢いをつけるのが大事だというオーナーの判断で、ゴールデンウィーク前の開店にこだわった。結果的に、人出の多い時期に店を開いたことですぐ人の目にとまり、その後繰り返して来店してくれるお客もできて、設定していた当初の



着物地で作られているとは思えないような洋服や小物が所狭しと並ぶ

手作り工房 心紬

〒019-1702

秋田県大仙市北檜岡字長丁場73-1

Tel.0187-72-2465

Fax.0187-87-1718

E-mail kokorotumugi@sky.plala.or.jp

営業時間/9:00~17:00 月曜定休(祝日の場合は営業)



飛び込みの客を当て込んで国道沿いに店舗を構えた(写真上)

ご主人で黒川電子社長の黒川次雄氏、店長と並ぶ黒川恵美子オーナー[中央](写真下)

売り上げ目標はひとまずクリアすることができた。

従業員の雇用を維持するというそもそもの狙いにも一定のめどがついたが、今後は待遇面も考えていかなければならないので、生産量を増やして卸しもして、売り上げを伸ばしていきたいと考えている。

着物地をリメイクするというビジネスは先行事例もあるが、抑えた価格設定で差別化を図っていきたいと言う。